

# 審 査 書

(仮称)旧上瀬谷通信施設公園整備事業に係る環境影響評価準備書(以下「準備書」という。)に関する横浜市環境影響評価条例第 31 条第 1 項に規定する環境の保全の見地からの意見は、次のとおりです。

横浜市長 山中 竹春

事業の実施に当たっては、事業内容及び地域特性を考慮し、準備書に記載された事項に加え、次に示す事項に留意してください。

## 1 事業計画

- (1) 対象事業実施区域内は、旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業(以下「土地区画整理事業」という。)が保全対象種の生息環境や地上式調整池を整備するとともに、公園の整備を一時中断して、2027年国際園芸博覧会の会場としても利用されます。これらの関連事業と連携して、環境に配慮した公園を整備し、適切に維持管理を行うよう努めてください。
- (2) 生物多様性の保全に資するため、相沢川及び和泉川周辺だけではなく、草地の環境等も含めた公園全体での生態系ネットワークの考え方を整理し、評価書に記載してください。
- (3) ガーデン 3、4には園芸種を主体とした植栽をしていますが、既存植生である低茎乾生草地等の保全についても考慮して、緑化計画をより具体化してください。
- (4) 公園区域は約 64.5ha と広大であることから、生物多様性の保全や雨水の浸透・貯留に加えて、ヒートアイランド現象の抑制の観点からも、できる限り人工被覆を抑えるよう努めてください。

## 2 環境影響評価項目

- (1) 工事中及び供用時

### ア 騒音

工事用車両及び来園車両等の走行による騒音レベルの増分は小さいとしています

すが、現況から騒音レベルが大きく増加する地点があります。その増加した要因を考察し、評価書に記載してください。

#### イ 地域社会

現地調査を行っている交差点では、飽和交通流率の設定には原則として実測値を用いて予測評価してください。その結果、交差点需要率が限界需要率を上回る交差点や交通容量比が1.0を上回る車線が予測された場合は、環境保全措置を徹底して実施するとともに、車両の走行経路や来園時間等を分散する方策を検討してください。

### (2) 工事中

#### ア 水質・底質

(ア) 仮設調整池の位置を明確にして評価書に記載してください。

(イ) 仮設調整池出口の浮遊物質量の予測濃度について、その算出過程を詳細に記載してください。また、浮遊物質量が低濃度になると沈降しづらくなることを考慮して、予測評価してください。なお、除去率や造成緑地で発生する浮遊物質量には不確実性があることから、事後調査を適切に実施してください。

#### イ 生物多様性

(重要な種の保護の観点から、非表示とします。)

### (3) 供用時

#### ア 生物多様性

(ア) 注目すべき種の生息・生育環境は現況に近い状態に回復すると予測していますが、この区域は公園の整備に先立ち土地区画整理事業により大幅に土地が改変されます。その前提を踏まえて、現況からの動植物の具体的な変化を明らかにし、その上で予測評価してください。

(イ) 公園全体で地域に適した生態系が復元され、維持されるように、既存樹の移植、郷土種を中心とした多様な植物の植栽や表土の保全・活用に加えて、在来種の積極的な保全についても検討し、評価書に記載してください。特にガーデン3、4においては、創出する水辺の生態系の質を維持・向上できるように復元する目標種の具体化と保全措置を検討し、評価書に記載してください。

#### イ 水循環

公園施設の整備により雨水浸透量が減少するため、樹林や草地の整備に加えてグリーンインフラを導入する計画としていることから、可能な範囲で定量的にグリーンインフラの効果を算出し、評価書に記載してください。

#### ウ 景観

(ア) 周辺の樹林や農地などの景観資源との関係性を踏まえた上で、変化や周辺環境との調和について質的な観点から具体的に予測評価してください。

(イ) 土地利用の変化や特徴的な景観の保全等の観点から価値の変化を具体的に記載し、その上で価値の変化の程度を客観的に示してください。特に、自然性や固有性の価値の変化は、フォトモンタージュで視認できる範囲においては、土地区画整理事業実施区域の変化も踏まえて予測評価してください。

エ 触れ合い活動の場

公園として自然体験や環境学習の要素を確保することは重要であることから、生物多様性を保全する上で重要な相沢川及び和泉川周辺においても自然との触れ合い活動の機会が確保されるよう検討してください。なお、新たな桜の名所づくりを進めるとしていることから、ガーデン3、4における桜の植栽に際しては、湿性環境の植生への影響に配慮してください。